

## 第八節 糖業事情

奄美大島は、終戦とともにアメリカの軍政下に入り本土から隔絶された。食糧の不足に加え、昭和二十五年までは砂糖の本土移出ができなかったため、さとうきび作よりも主食の米・麦・甘藷等の生産に主力を注ぐようになった。

生産糖は、沖縄で米と交換したり、一部は本土へヤミ移出したりもしたが、ほとんどは焼酎の原料として管内での取り引きであった。昭和二十五年四月以降、L/C貿易で本土への出荷ができるようになってから生産量も上向いてきた。

販売方法は大島郡農業会または名瀬市の久保井産業株式会社、有村商事等を通じて本土に出荷していた。

米軍政時代におけるさとうきびの生産状況は次のとおりである。

期間		栽培農家戸数	栽培面積 町歩	産糖糧 t	操業状況	
年	年				畜力	動力
32	21	一、一九一	四五	九三	八一	八
31	20	一、二六八	六〇	八六	五九〇	六
30	19	一、二九八	五八	六六	五五九	四
29	18	一、一五四	四九	八七	六〇五	四
28	17	一、三六四	九二	四三五	六九六	六
27	16	一七六	一七六	九五	六九六	一〇
26	15	一、五九五	二〇〇	二、二九一	六八七	一
25	14	一、五七五	三二七	一、五一〇		
24	13	一、七八五	三六四	二、七二五	一四一	四六
23	12	一、七八五	四〇九	一、六七八	一九	四三
22	11	一、八五七	四三四	二、六三二	一一	四二